

各 位

株式会社日本バイアウト研究所

『日本バイアウト市場年鑑—2007年上半期版—』 のご案内

謹啓

時下ますますご清祥の段、お慶び申し上げます。近年急成長を遂げている日本のバイアウト市場の動向およびLBOファイナンス市場の動向を明らかにした『日本バイアウト市場年鑑—2007年上半期—』を刊行致しましたのでご案内させていただきます。

【本書の特徴】

- ◎日本のバイアウト・ファンドの設立本数とコミットメント金額の推移、日本のバイアウト案件の動向（タイプ別、取引金額別、業種別、地域別、社長の就任形態別）、エグジット案件の動向、PIPEs(private investment in public equities)の動向を詳細に分析
- ◎日本のLBOファイナンスの動向に関する論文を収録

本書が、日本のバイアウト市場で活躍するエクイティ・プロバイダー、メザニン・プロバイダー、デット・プロバイダー、機関投資家、M&Aアドバイザー会社、エグゼクティブ・サーチ会社、経営コンサルティング会社、事業会社の経営企画担当・財務担当、弁護士、公認会計士、税理士などバイアウト実務に携わる方の役に立てれば幸いです。

発行所: 株式会社日本バイアウト研究所

発行日: 2007年9月30日

仕 様: A4版 200頁

価 格: 50,000円(税込)

主な内容: 目次を参照

【お申し込み方法】

申込書でのFAX送信かWebサイト上で申込書をダウンロードしメール添付でご送信下さい。申込受付翌営業日までに発送を開始致します。



株式会社日本バイアウト研究所

URL: <http://www.jbo-research.com/>

【お問い合わせ先】 jbori@jbo-research.com (担当: 杉浦)

目次

第I部 日本のバイアウト市場の動向

1.日本のバイアウト・ファンドの動向	3
1.1 日本のバイアウト・ファンドの設立本数とコミットメント総額の推移	
(1) 本調査におけるバイアウト・ファンドの集計方法	
(2) 日本のバイアウト・ファンドの設立本数とコミットメント総額の推移	
1.2 第一号ファンドと第二号ファンド以降の設立本数の推移	
1.3 2007年1月～6月に設立された主要バイアウト・ファンド	
1.4 日本企業も投資対象とするアジア・ファンドの特徴	
1.5 日本企業も投資対象とするグローバル・ファンドの動向	
1.6 バイアウト・ファンド運営会社の再編の動向	
(1) ファンド運用会社のMBOによる独立	
(2) 合弁体制の解消	
(3) 金融グループ同士の提携	
1.7 日本のメザニン・ファンドの設立状況	
2.日本のバイアウト案件の動向	12
2.1 日本のバイアウト案件の推移	
(1) 本調査におけるバイアウト案件の集計方法	
(2) 日本のバイアウト案件の件数と取引金額の推移	
2.2 タイプ別の日本のバイアウト案件の推移	
(1) バイアウト案件のタイプ	
(2) タイプ別の日本のバイアウト案件の推移	
2.3 2007年1月～6月に成立した子会社・事業部門売却型の主要バイアウト案件	
2.4 2007年1月～6月に成立した事業再生型の主要バイアウト案件	
2.5 2007年1月～6月に成立したオーナー企業の主要バイアウト案件	
2.6 2007年1月～6月に成立した公開企業の非公開化を伴うバイアウト案件	
(1) ファンドの出資を伴う非公開化案件	
(2) ファンドの出資を伴わない非公開化案件	
(3) ゴーイング・プライベートを伴うバイアウト案件の推移	
2.7 取引金額別のバイアウト案件の推移	
2.8 業種別のバイアウト案件の推移	
2.9 トップ・マネジメントの就任形態	
2.10 地域別のバイアウト案件の推移	
3.日本のエグジット案件の動向	32
3.1 日本のエグジット案件の推移	
3.2 2007年1月～6月までの主要エグジット案件	
3.3 日本のバイアウト案件のエグジット達成率	
3.4 投資の実行からエグジットまでの期間	
3.5 プレIPOメザニンの活用事例	
4.日本のPIPE案件の動向	40
4.1 日本のPIPE案件の推移	
(1) 本調査におけるPIPE案件の集計方法	
(2) 日本のPIPE案件の件数と取引金額の推移	
4.2 タイプ別のPIPE案件の件数の推移	
(1) 2007年1月～6月に成立した事業承継型の主要PIPE案件	
(2) 2007年1月～6月に成立した成長資金調達型の主要PIPE案件	
(3) 2007年1月～6月に成立した再生資金調達型の主要PIPE案件	
(4) その他の案件	
4.3 取引金額別のPIPE案件の推移	
4.4 シェア・ファイナンスの活用事例	
4.5 PIPEsのエグジット案件の動向	
4.6 レバレッジド・リキャピタリゼーションの活用事例	
5.事例紹介①	
上場企業に対するプライベート投資の留意点	57
～サンポット㈱に対する投資における、非上場化と上場維持の判断について～	
(執筆: 日本みらいキャピタル株式会社 ディレクター 阿部知樹)	
6.事例紹介②	
民事再生法適用企業のバイアウト	67
～東ハトの事業再生とM&Aによるエグジット～	
(執筆: 株式会社日本バイアウト研究所 代表取締役 杉浦慶一)	

第Ⅱ部 特集：日本のLBOファイナンス市場の動向

日本のLBOファイナンス市場の動向・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・85

(執筆：株式会社メザニン ディレクター 吉永幹彦)

【概要】 コベンツ、トランシェ、シンジケーションなど LBO ファイナンスの特徴について明らかにした上で、日本の LBO ファイナンス市場の発展過程を「市場創成期」と「市場発展期」に分けて今日までの発展をレビューし、今後の LBO ファイナンス市場の展望について述べている。

メザニン・ファイナンスの一般論・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・95

(執筆：株式会社メザニン ディレクター 水谷謙作)

【概要】 バイアウト市場において利用されるメザニン・ファイナンスについて、概況および現在までの経緯をまとめ、各種メザニン・プロダクトおよび投融资実行時点での留意点について解説し、今後期待されるメザニン市場および利用法などに関して考察を行っている。

株式公開の意味と非公開化―「純粋MBO」におけるメザニン・ファイナンスの活用―・・・・・・・・105

(執筆：GCAホールディングス株式会社 代表取締役パートナー 佐山展生)

【概要】 株式公開の意味と公開企業の非公開化を伴うバイアウトの基本原則について解説した上で、メザニン・ファイナンスの活用と非公開化前後の貸借対照表 (BS) の変化について論じている。また、2005年以降に増加している経営陣が100%の議決権を掌握した状態で非公開化を行う「純粋MBO」の概念と成立要件について明らかにしている。

日本のバイアウト・ファンドによる公開企業への投資―優先株式による投資の特徴―・・・・・・・・121

(執筆：株式会社日本バイアウト研究所 代表取締役 杉浦慶一)

【概要】 バイアウト・ファンドやメザニン・ファンドが公開企業の優先株式（一部優先株式以外の種類株式を含む）の発行による第三者割当増資を引き受けた主要23件の事例について、優先配当金、残余財産の分配、株主総会における議決権、金銭を対価とする取得請求権（償還請求権）、金銭を対価とする取得条項（強制償還条項）、普通株式を対価とする取得請求権（転換予約権）、普通株式を対価とする取得条項（強制転換条項）などの規定がどのように設計されているのかを分析し、それぞれの特徴の比較・考察を行っている。

日本におけるLBOファイナンスに関するアンケート調査―調査結果報告―・・・・・・・・175

(執筆：株式会社日本バイアウト研究所 代表取締役 杉浦慶一)

【概要】 日本でLBO案件への投融资業務（シニア・ローンの提供、メザニン・ファイナンスの提供）を手掛けている銀行、投資銀行、投資会社（投融资専門会社、メザニン・ファンド運用会社）、保険会社、ノンバンク（リース会社、クレジット会社）を中心に合計100社に対して実施したアンケート調査の結果を分析し、日本のデット・プロバイダーのLBOファイナンスの取り組みの実態について明らかにしている。

日本におけるLBOファイナンスに関するアンケート調査の概要

調査目的	日本におけるLBOファイナンスの取り組みに関する実態を明らかにする。
調査時期	2007年2月～3月
調査対象	日本でLBO案件への投融资業務（シニア・ローンの提供、メザニン・ファイナンスの提供）を手掛けている銀行、投資銀行、投資会社（投融资専門会社、メザニン・ファンド運用会社）、保険会社、ノンバンク（リース会社、クレジット会社）を中心に合計100社
調査項目	I LBOファイナンスの実施体制に関する質問 II LBOファイナンスの投融资の方針に関する質問 III 日本のレバレッジド・ファイナンス市場の課題・展望に関する質問
回答率	43社（回答率43.0%）